

これからの野菜栽培の注意点

2025年 4月
豊肥振興局 生産流通部

<栽培管理のポイント>

(1) キャベツ ○ 播種 × 定植 ■ 収穫

品目／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
キャベツ	■	■		○	○	×	×	○	×		■	

★育苗

- ・ 春まきでは発芽するまでの保温が重要。
- ・ 出芽するまで新聞紙でセルトレイを覆い、乾燥を防ぐ。
- ・ 育苗後半の肥料切れに注意。

(N成分10%の液肥で1000～2000倍で液肥かん水)

★畝づくり

- ・ 株間30cm。
- ・ 排水性確保のため、20cmの高畝にする。

★定植

- ・ 本葉3～3.5枚（播種から25日）で定植。
- ・ 定植1週間前には寒冷紗を徐々に取り除き、順化させる。

★追肥

- ・ 定植から3週間ごとに2回行う。
- ・ 同時に中耕、土寄せをすとなおよし！（雑草対策）

★収穫

- ・ 手で球を押してみて、硬くしまった感じになれば収穫する。
- ・ 収穫が遅れると、裂球することがあるので注意！

(2) ほうれん草 ○ 播種 ■ 収穫

品目／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほうれん草	■		○	○	■				○	○		■

★土づくり

- ・ 酸性土壌に弱いので、pH6～7に調整する。
(播種2週間以上前に苦土石灰100～150g/m²程度)
- ・ 播種1週間前に完熟堆肥2kg/m²、化成肥料100～150g/m²程度入れる。
- ・ 畝の高さは5cmほど。(排水不良地では15cm程とする)

★種まき

- ・ 1～2cm間隔で播種後、約1cmの厚さに覆土する。
- ・ 発芽までは、地面が乾かないように水やりをする。
- ・ 9月に播種を行う場合は、一晩水につけてから播くと発芽がよくなります。

★間引きと追肥

- ・ 本葉2枚の時から2回に分けて間引きする。
(最終的に6cm間隔になるように)
- ・ 2回目の間引きの時に追肥(化成肥料 5g/m²)を行う。

★収穫

- ・ 草丈が20cm以上になった株から順次収穫していく。
- ・ 品種によってはトウ立ちすることもあるので、早めの収穫を心掛ける。

※5～6月、9～10月のべと病が発生する時期は曇天時のかん水は避ける！

(3) きゅうり ○ 播種 × 定植 ■ 収穫

品目／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
キュウリ				○	×	■	■	■				

★定植時の管理

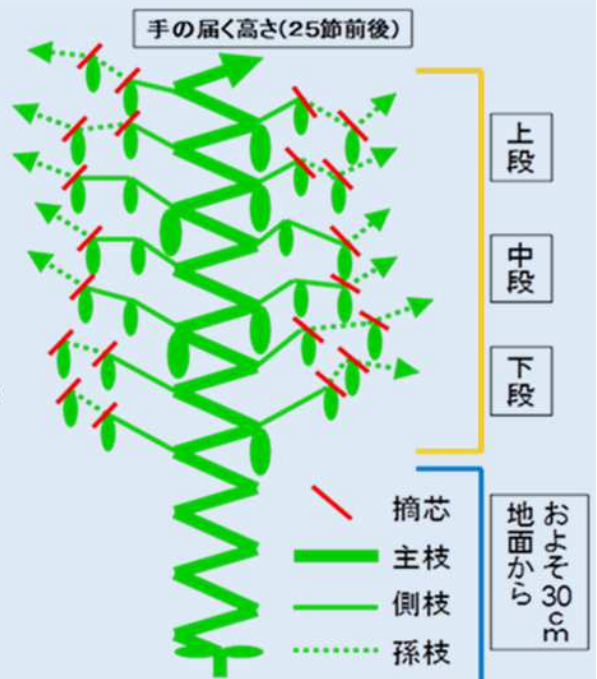
- 害虫対策として、定植時に粒剤を株元散布する。
→ 例：プリロッソ粒剤（アブラムシ、コナジラミ対策）
- 定植後は活着を促すため、手かん水（1株あたり200cc程度）を行う。（※活着まで絶対にしおれさせない！）

★活着から生育初期までの管理（本葉7～8枚）

- 本葉7～8枚まではどんどん伸ばす。
- その後は根を深く張らせるためかん水はやや控え気味にする。

★整枝・追肥

- 葉かきは混んだところから。
- 地面からおおよそ30cmまでの側枝や雌花は全て除去。
- 主枝の摘心は、手の届く高さで。
- 側枝の摘心は下段1節、中段2節、上段1節を目安に行う。
- 孫枝の摘心は、1節を目安とし、3～4本は草勢を見て残す。
- 定植2週間後から2週に一度、追肥をしましょう。
- 養水分が不足すると、変形果が生じます！
- 土壤が乾いていたら水やりも忘れずに。



(4) ナス

○ 播種 × 定植 ■ 収穫

品目/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ナス		○			×							

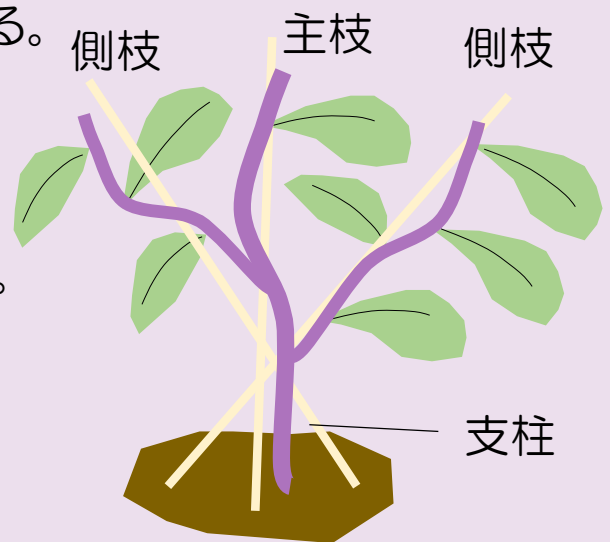
★定植時

- ・ 地温確保のため、黒色ポリマルチを敷く。
- ・ 定植は根鉢が畝面より2cm高くなるように浅植えする。
- ・ 害虫対策として、定植時に粒剤を株元散布する。
- ・ 霜に弱いので、定植は晩霜の危険がなくなってから！

★整枝・追肥

- ・ 整枝は1番花の下から勢いよく出た側枝2本を残し、3本仕立てにする。
- ・ 下の方のわき芽はかき取る。

- ・ 定植3週間後に最初の追肥を行う。
(化成肥料 50g/4株)
- ・ 以降、3週間おきにマルチ両側の肩の部分に追肥をする。



- ・ 「ナスは水で育つ」と言われるほど水分を好みます。
- ・ 水不足は、収量不足やハダニ被害の原因になるので注意。
- ・ 1番花や多く着果した時は若取りして、株の負担を減らしてあげましょう！

(5) トウモロコシ ○ 播種 ■ 収穫

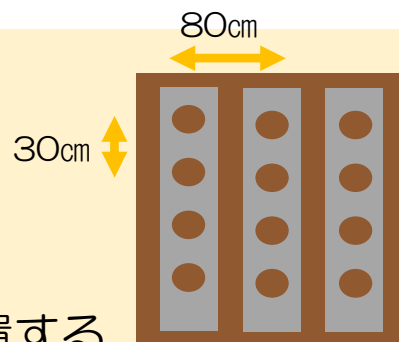
品目/月	4	5	6	7	8	9
トウモロコシ	○	○				

★土作り

- トウモロコシは多肥を好む。

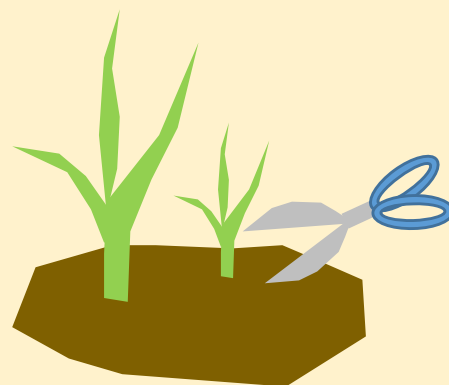
(㎡あたり化成肥料150g、堆肥2～3kg)

- 発芽と生育を揃えるため、マルチをする。
- 確実に受粉させるために、株は四角に配置する。



★栽培管理

- 植え穴に3～4粒の種をまく。
- 草丈20cmくらいまでに間引きを行い、生育の良い株を1本だけにする。



- 土が乾燥気味の際は播種後に水やりを。
- 草丈50cmの頃に追肥（化成肥料50g/株）と土寄せを行う。
- 雌穂は一番上のみを残し、それより下は取り除く。
(取り除いた雌穂はヤングコーンとして利用できます。)
- アワノメイガによる被害に注意が必要。
発生が確認されたら、殺虫剤を7日間隔で散布。

(6) トマト × 定植 ■ 収穫

品目/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トマト		雨よけハウス		×								
				×								
		対候型連棟ハウス										

★定植時の管理

- ・害虫対策として、定植前～定植時に薬剤を施用する。

→例：プリロッソ粒剤オメガ、ベリマークSC

- 第一花房のつぼみが付いた、**開花前**の苗を定植
- 定植後2週間は根鉢周りに**手かん水**し活着を促す
(1株あたり250~300ml)

★栽培管理

- ・30℃以上の環境下では落花・小玉果などが発生しやすくなるため、盛夏期は遮光ネットなどで高温対策を実施する。
 - ・わき芽は早めに取り。
 - ・誘引、つる下ろしに合わせて下葉の摘葉を行う。
 - ・マルハナバチを用いる場合は農薬の影響日数に注意する。
 - ・裂果防止のため少量多頻度かん水を心がけ、16時以降にかん水は行わない。
 - ・摘果は果実がピンポン玉くらいの大きさの時に行う。
 - ・果実温が上がっていると傷が付きやすいので、午前中に収穫する。
- ゴルフボールと500円玉の中間くらいで摘果
- 
- A close-up photograph showing a person's hand holding a small, round, green tomato. To the left of the tomato, a white golf ball and a Japanese 500-yen coin are placed for size comparison. The tomato is roughly the same size as the coin and slightly smaller than the golf ball. The background shows green leaves of the tomato plant.

ゴルフボールと
500円玉の中間くらいで摘果↓



☆病害虫については
(7) ミニトマトの項を参照する

(7) ミニトマト

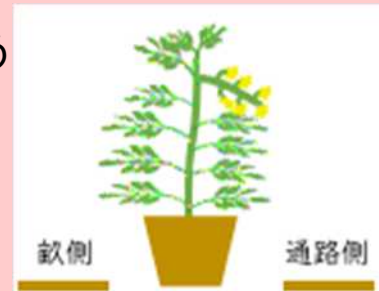
×定植

■ 収穫

品目/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ミニ トマト		ハウス	×									
				ハウス	×							

★定植時の管理

- ・ 遅霜の可能性が無くなった頃に定植を行う
- ・ ミニトマトはすべての花房が1段目と同じ側に分化するため、収穫しやすいように花房が通路側に来るように植える
- ・ 定植後、3段花房開花までは手かん水を行う
- ・ 定植前後に粒剤または灌注処理を行う



★栽培管理

- ・ 生育適温は12℃～20℃、30℃以上では不着果や軟果が発生しやすくなるため、夏季の高温対策は必須(遮光ネット等)
→マルハナバチを用いる場合、高温時は活動が鈍るためホルモン処理を行う
- ・ 1花房あたり18個前後を目安に摘花を行う
- ・ 効率的な収穫と均一な着色を促すため、収穫段に応じて順次摘葉する。摘葉は一度に3枚以内で行う
- ・ 裂果防止のため、少量多かん水を心がける
- ・ タバココナジラミは黄化葉巻病を媒介する
- ・ トマトキバガは幼虫が果実や葉を食害する
- ・ 薬剤抵抗性獲得を回避するため、ローテーションでの適期防除が重要



トマトキバガ幼虫

(8) ピーマン × 定植 ■ 収穫

品目/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ピーマン			ハウス	×								
				露地	×							

★定植時・栽培初期の管理

- ・ 苗は1,000倍程度の液肥等にどぶ漬け。
- ・ 植穴を開け、(例)ベストガード粒剤を1~2 g を植穴に施用し、よく土と混和しながら定植。
- ・ 深植えは湿害のもとになるため鉢土1 cm程度出る浅植えにする。
- ・ 初期は日中23℃~30℃を維持するため、必要に応じてトンネル被覆を行い、**気温・地温を確保**する。
- ・ 定植後2週間~1 か月程度1株200~300m l を目安に天候にもよるが1回/2日**手かん水**。(活着を促すため)

★栽培管理

- ・ 収穫が長期間に及ぶため気候に対応した**草勢の維持が重要**。
- ・ かん水時に適宜液肥を混ぜて施用する。(トミーブラック等)
- ・ 1、2番花は摘花(果)、摘蕾する。3番花は樹勢を見て行う。
- ・ 特にウイルス病を媒介する**アザミウマ類**に注意。

ウイルス病に感染した株はすぐに撤去し**圃場外で処分**する。

→**定期的な病害虫防除を推奨**。

灌水直前の土壌の状態を確認



根のある部分(20cm深さくらいの土)を手で握ってみて塊になるくらいが適

- ・ 夏季は過不足のない灌水が重要。
- ・ 遮光資材等で高温対策も。

- ・ 生育適温は、昼気温23~30℃、夜気温18~20℃、地温17~24℃



<病害虫対策>

(1) 連作に注意

- 野菜の連作は土壌伝染性の病害の発生を助長する。
→ 他の科の野菜との輪作を心掛ける。
(例 ダイコン→エンドウ→ナス→ほうれん草)
- 健全な土壌を維持することで病害の発生は抑えることが可能。
→ 有機物や石灰資材の施用を適正に行う。
→ 栽培開始前に土壌診断を行い、適正施肥をすること！

(2) 害虫の多発に注意

- 防虫ネットや不織布（ベタかけ資材）などのトンネルかけが有効。
→ 害虫の侵入を防ぐため、すき間ができないようにする。
- 除草の徹底をする。
(害虫は圃場周辺の雑草に潜んでいる。)

早期に発見し、対処することで
被害を最小限に防ぎます。

除草が重要です！！



☆農薬を使う際の3か条☆

1. ラベルの確認

使い慣れた農薬でも必ずラベルを確認して使用しましょう！

2. 飛散防止

周辺作物への飛散防止に努めましょう！

※風向きや散布圧力を上げすぎないように注意



3. 正確な記帳

農薬の使用履歴を正確に記帳しましょう！

※記帳したものは一定期間保管しましょう。

残留農薬が出てしまうと、道の駅及び産地の信頼に関わってきます。
特に正確な記帳はご自身を守ることに繋がります。

(証拠として提示出来るように)

農薬散布の際は上記の3か条を必ず守ってください！

連絡先 TEL 0974-63-1304

豊肥振興局 生産流通部 まで